

日本リンパ浮腫治療学会 小川佳宏理事長 就任のご報告

本年 10 月に開催された第 4 回日本リンパ浮腫治療学会総会において、当協会理事長の小川佳宏先生が本治療学会の理事長に就任されました。学会創立にご尽力されました前理事長の重松宏先生よりご推薦があり、理事・評議員、総会の皆様の満場一致を以て決まりました。

現在、わが国では複合的治療、外科的治療、遺伝子治療を応用した血管新生療法の試みなどが行われており、本学会では診療科や医療関係者の職域を超えて、リンパ浮腫や多様な治療法に関する研究、検討、討議がなされています。名誉理事長になられた重松宏先生は、「本学会は患者さんのために設立され、最善の治療をリンパ浮腫に悩む多くの方々に提供すること」を大切にされ、活動を積み重ねて来られました。そして、リンパ浮腫診療の医療水準の向上と質の担保を目的に設立された「リンパ浮腫療法士認定機構」の活動も引き継がれることになります。(現在、47 都道府県全域で 1,000 名以上のリンパ浮腫療法士が活動)。

リンパ浮腫を抱える患者さんやご家族、そしてわたしたちセラピストにとっても大変貴重である本学会の発展を心より願っています。

特定非営利活動法人 日本医療リンパドレナージ協会 副理事長 佐藤 佳代子

ブラッシュアップ講習会のご案内

「BU-6 婦人科がん」 ★新企画

内容：養成講習会で習得した内容の総復習

開催日：2020 年 1 月 25 日 (土)

受付期間：2019 年 12 月 9 日～12 月 23 日

会場：東京会場

申込専用メールアドレス brushup06@mlaj.jp

少人数制個別対応講習会のご案内

ふりかえり MLD・ふりかえり Bdg.

後藤学園附属リンパ浮腫教育支援センターおよびマッサージ治療室との連携のもと、MLAJ 養成講習会修了者を対象に、年間を通してブラッシュアップ講習を開催しています。詳しくは HP にて!

スキルアップ講習会のご案内

「SU-10 婦人科がん」 ★新企画

内容：下肢リンパ浮腫の臨床上の注意点や実践方法

開催日：2020 年 1 月 26 日 (日)

受付期間：2019 年 12 月 9 日～12 月 23 日

会場：東京会場

申込専用メールアドレス skillup10@mlaj.jp

「SU-11 鑑別」 LT 更新クレジット対応講習会

内容：下肢症例の鑑別および実習

開催日：2020 年 2 月 2 日 (日)

受付期間：2019 年 12 月 23 日～2020 年 1 月 6 日

会場：東京会場

申込専用メールアドレス skillup11@mlaj.jp

お問い合わせ・資料請求等 日本医療リンパドレナージ協会 事務局

046-854-7541 (火～金 11:00～17:00) e-mail: info@mlaj.jp



MEMBER'S
MAGAZINE

MEDICAL LYMPHADRAINAGE ASSOCIATION OF JAPAN

日本医療リンパドレナージ協会

会報

Vol.43
2019 winter

2019 年
冬号

[今月のカバーフォト]

全国各地で活躍される仲間
鳥取県 野の花診療所

Contents

巻頭記事・哀悼 矢形 寛先生

第 4 回 日本リンパ浮腫治療学会 学術総会
in 淡路島 リポート

会員 講習会参加リポート
新企画の継続研修会 SU-7 緩和症例

ドイツでリンパ浮腫治療に携わる
少人数制個別対応講習会 リポート

新企画「製品紹介」
テルモ・ビーエスエヌ株式会社 / 株式会社 メディックス

さとう先生の施設紹介
英 Journal of Lymphoedema 日本からのレポート

日本リンパ浮腫治療学会 小川佳宏理事長 就任のご報告
講習会のご案内

特定非営利活動法人

日本医療リンパドレナージ協会

〒238-0052

神奈川県横須賀市佐野町 2-34

神奈川県衛生学園専門学校内

TEL:046-854-7541 FAX:046-854-7542

http://www.mlaj.jp/

巻頭記事・哀悼

矢形 寛先生



リンパ浮腫診療の普及に尽力された矢形寛先生が、9月11日に享年55歳で永眠されました。矢形先生とは2006年頃の学会で初めてお会いしたと記憶しております。

当協会の顧問およびご講義も務めていただき、その他「がんリハリンパ浮腫研修委員」「日本リンパ浮腫治療学会理事」「リンパ浮腫療法士育成委員」など積極的に活動されていました。その仕事内容から私もお会いする機会が多く、的を射た的確なご意見をたくさんいただきました。教授に就任された際にもいち早くお教えいただき、「ぜひ一度徳島で講演を」とお願いしておりましたが、ご多忙で実現できなかったことが悔やまれます。

最後にお会いしたのは昨年横浜で行われた日本リンパ浮腫治療学会でしたが、懇親会後に会場からホテルまで二人歩きながら、リンパ浮腫診療のこれからを語り合いました。同世代で意見が合っただけに早逝が悔やまれます。ただこれからも私たちの活動を温かく見守っていただけたと思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

特定非営利活動法人 日本医療リンパドレナージ協会 理事長 小川 佳宏

矢形 寛先生との出会いは2004年に遡ります。当時は聖路加国際病院プレストセンターで乳がんの患者さんの外科治療をされていました。

ご存知の方も多いかと思いますが、矢形先生は当協会修了セラピストです。ご多忙のなか、お台場会場で皆さんと一緒にTシャツ&短パンで講義を受けてくださいました。そしてなんと、ランナーでもある先生は講義が終わると、病院までの約12kmの道のりを走って診療に向かわれ、そのバイタリティに大変感動いたしました。その後、先生よりお声かけいただき、2008年に聖路加看護大学看護実践開発研究センター内に「リンパ浮腫ケアステーション」が開設され、2016年まで客員研究員を務めさせていただきました。

医学と医療の両輪をいつも大切にされていた矢形先生からは学ぶことばかりでした。矢形先生の優しく、そして少年のような爽やかな笑顔がいつも思い出されます。

これからもずっと、ずっとリンパ浮腫医療の発展を見守っていただきね。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

特定非営利活動法人 日本医療リンパドレナージ協会 副理事長 佐藤 佳代子



さとう先生の施設紹介

全国各地で活躍するセラピストや施設を佐藤佳代子先生が紹介します！

鳥取県 野の花診療所



風と砂が織りなす表情豊かな鳥取砂丘。その姿は四季の移ろいを映し、いのちある今を魅する万華鏡のようです。鳥取市の一角に佇む「野の花診療所」。自宅で最期を迎えたい人やそ

のご家族を支えるホスピス診療所として全国から患者さんを受け入れています。徳永進院長とスタッフの皆さんは心ひとつに、世を去る人、世に残る人の尊い握手の時間を見守ります。



2006年、所内にリンパ浮腫外来を開設されました。週2回の患者さんのリンパ浮腫治療を担当されるのは、看護師の宇田川美嘉さん。患者さんとの会話のなかに、過ごしやすさのヒントを見つけながら、細やかに治療の流れを整え、思いをめぐらし圧迫用品を選びます。むくみのある手足のケアは、全体の一部。傍に居ること、穏やかな言葉かけ、この人なら話してもいいなと思える雰囲気。セラピストとしての専門技術と細やかな心遣いから生まれるケアに、患者さんの安堵の笑みがこぼれます。

野の花診療所のMLAJ修了セラピストの皆さん：宇田川 美嘉さん（写真）中級修了 2009年3月大阪会場
姫村 久子さん、加藤 未希さん、松本 典子さん

Journal of Lymphoedema

英 Journal of Lymphoedema 日本からのレポート

今年6月、「Journal of Lymphoedema」において『乳がん術後リンパ浮腫患者におけるタキサン系抗がん剤による強皮症様皮膚硬化（SLSI）に対する複合的理学療法』について報告した。SLSIに悩まされる患者は多く、国内外においていくつかの報告書が公開されている。発症時期や程度には個人差があり、一度定着すると治療に難渋し、重度の関節可動域制限を生じることもある（Maehana 2010, Sibaud 2016）。当施設ではSLSIに対し特殊なほぐし手技を取り入れたCPTで対応している。右乳がん術後に患側上肢および両下腿にSLSIを発症した47歳女性に、90分×5回/2ヶ月間のCPT（スキンケア/MLD/圧迫療法/運動療法）を実施した。初回と最終日の比較は[周径値]手背：-0.4cm、左/右下腿：-2.9cm/-4cm、左/右足関節：-1.6cm/1.7cm [ROM] 手関節掌屈+6°、背屈+5°、左/右足関節底屈：+4.6°/+6.7°、左/右足関節背屈：+1.3°/+2.4°であった。超音波検査で皮下組織内の貯留水分の減少および脂肪層肥厚の4mm軽減を確認した。4回目入室時に痛みと感覚障害が大幅に改善し弾性着衣の着用が可能となった。最終入室時には痛みと可動域制限をほぼ感じることなく歩けるようになった。

一部引用：Journal of Lymphoedema 2019, Vol14, No1, pages 46-4

認定教師/佐藤佳代子



2019年度 新企画の継続研修会 スキルアップ7 緩和症例 「看護師による終末期ケアにおける実際と対応のポイント」講習会を受講して

< 講習会開催日：2019年9月16日 >

北海道中央労災病院
是廣 由美子



私は2015年から2016年にかけて、初級、中級、上級の講習会に参加しセラピスト資格を得ました。セラピスト資格を取得してから、リンパ浮腫外来立ち上げに向けての準備を進めていく予定でしたが、実際は諸事情で未だ外来を立ち上げることができずにいます。所属施設では、緩和ケア認定看護師として、緩和ケアチームの専従として活動しているため、時間をやりくりしてリンパ浮腫患者さんのケアを行っている現状です。専門が緩和ケアなので、リンパ浮腫のみならず、終末期の浮腫への対応も多々あり、今回の研修テーマは自分の専門と

する内容であったため、研修案内が届いてから必ず受講しようと思っていました。講義は、湘南記念病院 乳がんセンターの萬谷睦美先生と、医療法人鉄蕉会 亀田総合病院の千葉恵子先生のお二人の講師から「緩和医療（がん終末期）におけるリンパ浮腫ケアの対応のポイント」を学びました。お二人とも自施設でのリンパ浮腫ケアの提供体制の紹介と、これまで対応されてこられた中から、萬谷先生から3例、千葉先生から5例の事例提示があり、各事例の関わりのお話をいただきました。

萬谷先生は、乳がん患者3例をととても丁寧に経過を話してくださったので、どの症例もリアルにイメージでき、特に病状進行に伴う心理的变化、そこに充分配慮したケア提供の仕方がとてもよくわかりました。終末期に限らず、リンパ浮腫ケアは単なる局所治療ではなく、全人的な関わりが必要ですが、その中でも終末期は特にその視点なくしては「ケア」には成り得ないと思っています。患者さんの残りの時間の一部を共有させてもらいながらリンパ浮腫ケアを行っているのだと、あらためて身の引き締まる思いになりました。

千葉先生は、緩和ケアチームの専従として活動しながらリンパ浮腫外来を行うという、まさに私がこれから取り組もうとしていることを実践されている方であり、ケア時間の確保やケア提供面でのコスト的なバランスといった、具体的な動き方など参考になるお話が沢山ありました。特に看護スタッフとの関わり方の難しさと工夫、安全に配慮したリスク回避の徹底、緩和ケア認定看護師としての専門的視点が加味されたアセスメントは大変学びになりました。「今日が終わりと思って1回のケアを大事に（次はないかもしれないけれど）また来るね」と声を掛けてくる」との言葉は、現在の自分の実践と重なりとても共感できました。

講義のあと、佐藤佳代子先生より、圧迫の実際の工夫について、色々な物品や方法のコツを学ぶことができました。中でも、弾性ストッキングの代わりに、ミドルストレッチ包帯を使って圧迫のセルフケアを行っているというお話は、「そういうやり方もあるのか!」という驚きと、色々な製品を組み合わせて使うことでのケア方法の広がり可能性を感じました。

1日通しての講習会でしたが、質問も多く、参加者全員で情報を共有できた貴重な時間であり、「また明日から頑張ろう」と思える元気と刺激を頂きました。患者さんとの一期一会の時間に「気持ちよかった」「楽になった」と感じてもらえるようなリンパ浮腫ケアの提供をしたいと思っています。

ドイツでリンパ浮腫治療に携わる

今年の春よりまた臨床に戻る機会に恵まれ、ドイツのヘッセン州にある Praxis für Physiotherapie Ilka Münzenberger（理学療法施設）にてリンパ浮腫患者さんの治療を始めることになりました。ドイツではリンパ浮腫治療が保険適用になりますので、患者さんが医師から指示書をもらい、その内容に応じて私たちが複合的理学療法を行う流れになっています。私が現在継続的に担当している患者さんは、乳がん術後、喉頭がん術後の方、股関節手術の術後の方、静脈性リンパ浮腫の方などです。治療は診断内容によりますが、30～45分のMLDで週1～2回の頻度で通院してもらいます。患者さんの状態を間隔を空けずに確認できるのは、日本の環境を考えると本当に素晴らしいことだと感じます。ドイツでは患者さんが早期に日常生活に戻れるように整形外科的な手術後の一過性の浮腫（骨折・関節の手術後）に対してもMLDの指示が出されます。そのため多くの患者さんがMLDを必要としていると感じます。

今後もドイツで複合的理学療法を必要としている方に、少しでも力になれるよう頑張ろうと思います。



医院長
イルカミュンツェンベルガーさん
スタッフ長
アニカフリースさん

認定教師／ドレヴィッツ佳央里
（取得資格：フェルディ式 ML/KPE 専門教師・
認定セラピスト、ドイツ・バーデンブルテン
ベルク州認定国家資格・医療マッサージ師）

少人数制個別対応講習会 リポート

今年度も半分が過ぎ、少人数制個別対応講習会の受講希望連絡が届くようになり、皆さんに徐々に浸透していると感じています。

本講習会は、昨年度まで開催していたブラッシュアップ講習会（MLD / Bdg.）の受け皿となるもので、当協会が委託し、学校法人後藤学園附属リンパ浮腫教育支援センターが主催、センター所属のMLAJ認定教師が対応しています。

養成講習会で学んだMLDとBdg.の内容をフォローする講習会ですが、一番の特徴は受講生が最大4名までの少人数制ということです。

MLDやBdg.を施術する受講生に対して認定教師がほぼマンツーマンで対応していますので、担当する我々も3時間半の講習時間が非常に濃密であると感じています。

MLDでは基本四手技や上肢・下肢の治療手順を、Bdg.では上肢・下肢の臨床的な巻き方を練習することがベースですが、受講生の目標や課題を確認するための受講前ヒアリングを行いますので、より学びたい内容に重点を置くことも可能です。

受講生からは「個人に合わせて進めていただけた」「養成講習会で学んだ内容を再確認できた」などのお声をいただいています。

開催時間が17:00～20:30と少し遅い設定ですが、満足度の高い講習会を目指して取り組んでいますので、各種試験の受験対策やご自身の技術の振り返りの他、外性器浮腫や顔面部浮腫の患者さんへの施術の予習など様々な目的でぜひご利用ください。

◎講習会の詳細

<https://lesc.gto.ac.jp/教育支援-2.html>

認定教師／矢田 法子

製品紹介 ≪ テルモ・ビーエスエヌ株式会社 ≫

『ジョブスト® リラックス』

ジョブスト リラックスは、在宅時・休憩時でも負担なく使い続けられることをコンセプトに開発されたリンパ浮腫などの患者様向けカスタムメイドの弾性着衣です。

着用時の負担軽減のため、薄手で平編み構造の生地を採用しました。また、伸長率の幅が少なく、適切な圧迫圧を発揮します。

肌に直接触れる部分は凹凸のある表面形状で、高いクッション性と優れた通気性を実現するための空間がある内部構造です。ムレを低減する通気性の良い素材を使用し、乾きやすくお手入れもしやすい生地です。

圧迫圧は、末梢部を最大として中枢に向かって段階的に弱くなるように圧設計をしています。

採寸を必要とするカスタムメイド品で、患者さんに合わせたサイズで受注生産しています。



●アームスリーブ ミトン付き、ミトンなし
ハイソックス、ストッキング

●圧迫圧：上肢 20-27hPa (15-20mmHg)
下肢 20-27hPa (15-20mmHg)
27-40hPa (20-30mmHg)

●カラー：ピンク

●希望小売価格(税別)：26,000～41,500円

一般医療機器 弾性ストッキング

販売名：ジョブスト リラックス

医療機器届出番号：13B1X10103000037

製品紹介 ≪ 株式会社 メディックス ≫

『メディカルサポート グロー Y15』

アームスリーブ・平編み

生地はリブ調で平編みなのに弱圧でとても伸びが良く非常に着用しやすいです。また平編みならではの生地の厚みによるホールド感とフィット感も抜群です。履き口と手首の両端は縫い目や切替えがない仕様で食い込みを軽減します。



従来アームスリーブの一番圧力が強いポイントは手首ですが、その強い圧力ポイントをあえて前腕の中央部にし、手首周辺の圧力は緩めに設計することで手首の食い込みと手背への浮腫みを緩和します。一般的な平編み

特有の縫い目が、弊社の平編みは全くない事も特徴のひとつで、ツッパリ感がなく圧力も厳密にコントロールされております。

サイズに関しましては基本オーダーメイドですが、既製品の各サイズ中心値を基準にしてメジャーリング数値が無くてもオーダーメイドの発注が可能で、納期も約1週間でお届けします。詳しい発注方法につきましては弊社までお問い合わせください。

●圧力クラス：Y15
13~26hPa (10~20mmHg)

●カラー：ベージュ

●サイズ：オーダーメイド

●価格：¥14,000(税別)

毎年新しいリンパ浮腫治療用の製品が紹介されますが、どんな特長があるの？従来品とどんなところが違うの？などの疑問を抱えるセラピストの皆さんも多いようです。本誌ではそのような皆さんのお悩みにお答えするべく、企業賛助会員の皆様に新製品やお勧めの製品についてご紹介いただきます。ぜひ患者さんのより良い治療のご参考になりますようお願いいたします。製品に関するご不明な点などは直接各企業にお問い合わせください。

第4回日本リンパ浮腫治療学会学術総会
in 淡路島 リポート

10月5日(土)・6日(日)の2日間、第4回日本リンパ浮腫治療学会学術総会に参加してまいりました。会場はリゾート地として知られる淡路島夢舞台。天候にも恵まれ、延べ530名の参加者が集まりました。

今回様々な講演を聴講しましたが、その中で特に印象に残っているのは、リンパ管の障害の程度を評価する方法と、その評価に応じた治療法が必要とされているということです。

以前より個別のリンパ流を意識したMLDの有用性は報告されていますが、今回患者さんへのICG検査ライブデモが行われ、最新の知見と、これまでの保存療法が組み合わさることでの新たな可能性を感じました。

また圧迫療法においても、外科療法の多様化や着圧測定の普及が進み、「圧迫圧」と「伸び硬度(周囲径の増加に抵抗して、壁のように働く力)」の正しい理解が重要だと思いました。

私が勤める治療施設でも昨年度より着圧測定を導入し、症状があまり改善しない維持治療期の患者さんに対して、圧測定値を参考にして圧迫材料の見直しを行っています。その中で、着圧を高めるより伸び硬度を高めることで奏功する症例が多いため、適当な圧迫圧を維持しながら、高いポンプ効果を生み出す伸び硬度を意識することが大切であると感じています。

当協会の理事長である小川佳宏先生より診療経験に基づいた圧迫療法によるトラブルを防ぐための注意点について講演をいただきました。各種圧迫製品が充実している今だからこそ、その選択の指標について改めて考えさせられる内容でした。

その他、当協会副理事の新井恒紀先生による保健委員会の報告として、複合的治療が

少しずつではあるが増えていること、さらなる発展のためにはまずは指導管理料をしっかりと算定し実績を積むことが大切であることなどが示されました。同じく副理事長の佐藤佳代子先生は特別講演で当協会および後藤学園の人材育成の現状と課題について発表されました。理事の吉田洋子先生は「複合的治療スキルアップ・ライブデモ」にてMLDの手技のポイントと関節運動を組み合わせたほぐし手技についてライブデモを行いました。

リンパ管の機能評価において先進国である日本では、現在、これまでスタンダードと言われてきたことについて改めて検証し再評価をしていく時代を迎えているかと思います。私自身も今回学会へ参加して、臨床や教科書で学んだ考え方をベースにしながらも、変化する情報を柔軟に受け止め、検証・再評価を意識し、より効果的な治療を行えるよう探求していきたいと思いました。

認定教師／大村 玲季

